

# 春!スタートの時



新入職員の皆さん!ご入職おめでとうございます。  
この春も、大阪府内の自治体には多くの職員が入職されました。住民の喜びは、私たち自治体職員の喜び!大阪自治労連の組合では、「働きがいある職場を一緒につくっていきましょー!」と、呼びかけています。



4月3日(火)、交野市職労で新人歓迎パーティーが行われ、新入職員と昨年採用の若手組合員など各職場から50人をこえる参加で楽しむことができました。(関連記事2面)

## 大阪自治労連の新しい仲間「かがやく労組」(豊中市医療保健センター労働組合) 結成!

豊中市と医師会などが出資して設立された財豊中市医療保健センターが、2009年4月から指定管理者制度の導入により「介護老人保健施設かがやき」となり、仕事内容が大きく変化しました。職員に雇用不安が広がるなか、豊中市職労や地域労連の援助を受け、月1回の学習会を重ねて「労働組合の結成なくして職場は守れない」と、3月20日に「豊中市医療保健センター労働組合」(通称「かがやく労組」)を結成しました。



辻川 千代さん

豊中市医療保健センター労働組合 (通称「かがやく労組」) 執行委員長

# 「黙っての我慢」を「闘う我慢」に変えて

介護ケアに  
魅力を感じて

若い頃は、急性期の医療を勉強したいという思いが強かった辻川さん。看護師の経験を積み子育ても経験する中で、次第にお年寄りの介護ケアに魅力を感じるようになりました。家族の

生活を支えるため、派遣や短時間勤務から、正規の看護師として、6年前に豊中市の介護老人保健施設で働き始めました。

指定管理者制度で  
突然 労働条件のしめつけ

ところが、指定管理者制度が導入され「休憩時間の短縮や賃

「愛する家族や支えあう大事な仲間がいるからたたかうのです」結成大会で、凛として決意を語る辻川さん

金の引き下げなど」が朝のミーティングで告げられました。「法人からの紙一枚の通達で、生活が壊される」という事実には愕然。「なぜこんな決定になったのか。法人の説明や話し合いがないことはおかしい」と思い、「法人側が職員の過酷な就労実態をつかんだ上で、話しあって分かった」と、辻川さんがみんなの要求を質問状にして法人に提出。しかし、それには応えてもらえませんでした。

「質の良いケアのためには、労働条件をしめつけず、休憩もきちんと取れるような職場環境を整えることが法人の役割はずなのに...」。その思いに共感してくれる仲間がだんだん増え、職場の仲間やつながりをたどり、豊中市職労の協力で月1回の学習会に取り組みました。

「無知は無力、知るは力」  
労働組合の結成へ

指定管理者制度や労働組合などの学習をしていく中で、「労働組合の結成なくして労働条件は

「かがやく労組」結成大会  
新しい仲間を迎えたい

そして迎えた3月20日の結成大会。「黙っての我慢」を「闘う我慢」に変え、「知って知らせて組織する」を合言葉に職場の力を結集していくことを宣言。大阪自治労連や地域の労働組合の仲間とともに迎えたこの日。「看護と家事と子育てしか知らないただのおばちゃんだからこそ、勉強して頑張ります」と、辻川さんたち女性パワーが全面にでた結成大会。「組合ができれば、仲間を迎え入れることができるのでうれしー!」と、さらに仲間を増やすことに意欲を燃やす辻川さん。これからも温かい応援をお願いします。



全職員に元気にニュースを配布